

神奈川経協・連合神奈川 政策懇談会

開催日：2月24日（月） 於：ワークピア横浜



開会にあたり阿部副会長兼労務委員長から、「今回の春季労使交渉は、賃上げ等で経済環境を変えるターニングポイントと言われており、事実労使ともそれが争点であろう。しかし、経営的には総額人件費も無視できない状況にある。高年齢者の雇用や社会保障の費用、退職金など年金等々の問題も抱えており、総額人件費の中身について充分検討を進めなければならない。また県内の有効求人倍率は全国でも非常に低い。一番の課題は若年者の雇用を守ることであり、これからの日本を支える社会環境の整備にも繋がる。今日は以上のようなテーマについて忌憚のない討議をした。」との挨拶があった。

続いて柏木連合会長からは、「アベノミクスと連合の賃上げ論は同床異夢であるが、日本経済を腰折れさせないように取り組んでいる点では同じ。若年者や高齢者雇用の問題等、先々の日本経済を俯瞰しつつどうあるべきかを議論していきたい。雇用法制の規制緩和は、問題が多く時期尚早と思う。日本を憂える点では企業側とそれほど方向性に違いはないと思うので、将来に向けての議論を中心に、これからこの国を背負っていく若い世代に少しでもきちんとした社会を残していけるような議論のきっかけにしたい。」との挨拶があった。

次に2014年の春季労使交渉にあたっての主張と考え方について、「経営労働政策委員会報告」に基づき石部専務理事より、続いて「連合白書」に基づき渡部副事務局長から説明があった。

意見交換では、「合成の誤謬」（＝ミクロの視点に埋没し、企業利益が出たら賃上げを検討する経済・業績後追い型の賃金決定の繰り返すこと）について、経済成長と企業経営と賃上げについて、若年者・高年齢者・非正規雇用について等々、複合的な視点から将来に向けた活発な議論を行った。